

会 議 録

1 会議名

令和7年度第5回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・福島城を愛する会との意見交換（公開）
- ・上越市防災士会直江津支部との意見交換（公開）

【報告事項】

- ・廃校施設の利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査の結果について（公開）

3 開催日時

令和7年8月19日（火）午後6時30分から午後8時07分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、青山委員、稲川委員、
今川委員、鴨井委員、小玉委員、柴山委員、関澤委員、関谷委員、
田中（実）委員、田中（由）委員、保坂委員、増田委員（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田中（実）委員、田中（由）委員に依頼

【磯田会長】

議題【自主的な審議】福島城を愛する会との意見交換について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

今回の意見交換は、昨年12月に実施した福島城資料館の視察を通じて、協議会として資料館の資料が貴重なものであると感じると同時に、知識の伝承や資料の維持管理に関して福島城を愛する会のご苦勞も感じたことから、資料等の今後について協議会も協力できることがないか、意見交換を行うものである。本日は、福島城を愛する会から、柳澤副会長と相澤事務局長にお越しいただいた。事前に、福島城を愛する会から、資料No.1の会の目的等の提供をいただいているので、意見交換の際の参考にしてほしい。磯田会長から意見交換を進めていただきたいが、事前に愛する会の皆さんには、意見交換は30分程度とお伝えしてあるので、午後7時をめぐりに意見交換を終了していただければと思う。

【磯田会長】

福島城を愛する会の柳澤副会長様、相澤事務局長様、よろしくお願いします。ざっくばらんにお話させていただければありがたい。

今日の意見交換のポイントとして、3つ考えている。1つ目は、福島城を愛する会がお持ちの資料の維持管理の継続について団体としてどのようにお考えになっているか。

2つ目は、資料の維持管理が愛する会の皆さんの重荷になっているというようなことであれば、ほかの団体で資料を預かってもらうということは検討しうるか。またそれについて地域協議会も一緒に考えてもよいか。

3つ目は、現在資料館にある資料を、もっと人目につきやすいところに移して展示するというのは検討しうるか。

この3点をメインに意見交換をさせていただければと思う。

【福島城を愛する会：柳澤副会長】

- ・自己紹介

会長は体調を崩しており、今日は欠席となっている

資料の関係について、地域活動支援事業を活用して作成した立派なジオラマが資料館

にあるが、もっと有効に見ていただける場所があれば、そちらに移してもらって構わない。

それから、今の資料館は電気がない、水がない、トイレがないという状態なので、見学に来られる方は、福島城を愛する会のものというよりも、上越市のものとして見るので、市としてのイメージが悪いと思う。

それから、入口に石垣と石碑があるが、ここは日本ステンレスの土地になっている。そういったことから、旧古城小学校舎の敷地は市が港町に委託して草刈りを行っているが、石垣と石碑部分は除外されており、そこについては、私どもが草刈り等の整備をしている。この整備が大変負担なので、石垣の部分も市で管理してもらいたい。

それから、資料館は常時締め切りなので、豆虫が湧いてくる。先日も市の謙信KIDSプロジェクトの城と武将の講座で、小学生が訪れるということで、1週間前から掃除を始めたが、3日間かかった。この掃除も大変負担になっている。

【福島城を愛する会：相澤事務局長】

・自己紹介

私は平成25年からこの活動を積極的にやってきたつもりである。

一番の問題は、会員が高齢化したということである。我々の責任もあるのかもしれないが、次世代への継承が今一つだったと思う。そんな最中にコロナの問題、さらに古城小学校の閉校等が重なり、活動もあまりできず、平成2年からは会費や協力金は一切もらっていない。したがって、名前だけの会というのが実態である。

資料の維持管理の継続について、個人個人の価値観によって、その資料の重みは異なるものだと思うが、私が願うのは、この資料は、伝統のある古城小学校の生徒たちが主体となって作った資料が大半なので、地域の宝として残してほしいと思う。

展示場所について、いろいろな方からアドバイスを受けて、例えば佐渡汽船ターミナルや、町内会館の入り口も検討して町内会に相談したこともあったが、その時はその気になってくれる人が少なかった。もっと喜んでもらえる場所があれば、場所を移すこともやむを得ないと考えている。

【磯田会長】

お2人の方からお話いただいたが、委員からご質問やご意見はあるか。

【古澤副会長】

運営が大変なのは何年も前から聞いている。このことを行政に話はしているのか。

【福島城を愛する会：柳澤副会長】

石碑のあるところの草刈りや冬囲いについては、3年ほど前に教育委員会へ行き、担当者といろいろと折衝をしたが進展はなかった。教育委員会では草刈りのお金は出せないと言われている。

【磯田会長】

資料について、教育委員会と話をされた経緯はあるか。

【福島城を愛する会：柳澤副会長】

ない。

【磯田会長】

ほかに質問等を求めるがなし。

私から1つ確認させていただきたい。

資料について、ほかの場所に移して展示や、できるだけ日の目を見るような道筋であれば、会としてもその方向がいいのではないかというようなニュアンスのお話であったかと思う。

我々としても、福島城の、特に資料については、直江津区の中の大きな課題として捉えていて、このままあの場所で展示を続けることが本当にいいのだろうかというところからこのような対話をさせていただいている。

先ほど、教育委員会と資料についてのお話はまだされていないということなので、例えば、教育委員会と、福島城を愛する会と、我々直江津区地域協議会が、その問題について協議する場を作っていく、あるいは将来的にどういうところに持っていくことが考えられるかなど、そのような道筋をつけていくお手伝いを、協議会が行っていくというのはいかがか。

【福島城を愛する会：柳澤副会長】

直江津区の財産として日の目の当たるところに設置してもらえば、かえって資料も喜ぶと思う。ぜひお願いしたい。

【磯田会長】

会の皆さんの今までの熱意や、地域活動支援事業で作ったジオラマなど、せっかく立派な資料があるので、そういう部分を後世、次世代にも伝えていきたいという思いは我々も一緒なので、その部分について、協議会としていろいろな意見を出したり、市に働きかけたりということもできると思う。本日はその方向性で合意させていただいたと思う。

ほかの委員の皆様もそれでよいか。

(委員同意)

そのような形で、一緒に取り組んでいきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

－ 福島城を愛する会 退室 －

次に、上越市防災士会直江津支部との意見交換について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

直江津区地域協議会では、地域ぐるみの防災活動の推進を自主的審議事項として、直江津区の地域防災力の向上等をテーマに審議をしている。審議にあたり、直江津区の地域防災力の向上に日々ご尽力されている防災士会直江津支部の活動について、理解を深めるとともに、意見交換をさせていただくために、本日は、直江津支部の木島副会長と、当協議会の委員でもある関谷副会長と、伊藤事務局長からお越しいただいた。

まず、直江津支部の皆さんより、資料を基に支部の設立経緯や組織の体制、活動内容、支部としての課題等をお話いただいた後、意見交換に移りたい。進行は、磯田会長にお願いするが、事前に直江津支部の皆さんには、説明と意見交換で1時間程度とお伝えしてあるので、午後8時頃をめどに意見交換を終了したいと思う。

【磯田会長】

直江津支部の木島副会長、関谷副会長、伊藤事務局長、本日はよろしくお願いします。

まず、直江津支部の設立の経緯や組織体制、活動の内容についてお話いただきたい。

【防災士会直江津支部：伊藤事務局長】

・自己紹介

当支部は平成29年7月20日に発足しており、支部の区域としては、直江津中学校の区域内と設定している。現在の会員数は、男性70名、女性8名の計78名で活動している。

・資料 No. 2 に基づき説明

【防災士会直江津支部：木島副会長】

会長は体調不良ということで、私が会長代行のような形になっている。意見交換の前に「そもそも防災士とは何か」について簡単ではあるが説明させていただく。

まず、防災士というのは、少し堅苦しいが、日本防災士機構が認定する民間資格で、自分を助ける「自助」、共に助け合う「共助」、「協働」を原則として、社会の様々な場で減災と社会の防災力の向上のための活動が期待され、そのために研修を行い、知識・技能を有した者である。

防災士は、自分が住んでいる町内会から、「私たちの町内のために、防災士になってくれや」というように、頼まれるような形で防災士になる方がほとんどという状況だと思う。防災士の平常時の活動としては、自らのスキルアップにつながる研修会受けたり、防災士同士の情報交換、連携等のほか、所属町内の防災訓練等にはアドバイザー等として活動している。

防災士のそもそもの使命としては、自町内も含めて災害に遭ってしまう住民の命を守るというところが全ての出発点で、地震が来たり、津波が来た時に一人も死んでほしくないというところからスタートして、そのためにはどうしたらいいかということを勉強して、町内会、または行政と連携しながら、どうしたらいいかというところを日々模索しているというのが我々防災士である。

災害時においては、所属する町内会や地域の要請によって、避難や救助、救命、避難所が設営される場合は率先して立ち、自分たちの町内において、なるべく皆さんがスムーズに避難して、命をつなげるためのサポートができればというようなところを目指しているところである。

【磯田会長】

意見交換に入らせていただく前に、直江津区地域協議会は「地域ぐるみの防災活動の推進」を自主的審議事項にして、地域ぐるみとはどうしていったらよいか、あるいは令和6年元旦の能登半島地震を受けて、地域がもう少し一体となって活動していくようなことができないのかなど議論してきていた。令和5年度には、防災士会さんと一緒に、地域独自の予算事業に提案を検討した経緯もある。それは直江津区の町内会さんと防災士会さんと地域協議会と上越市が入るプラットフォームのような協議の場を市の事業として作ったらどうかというものであったが、残念ながら提案には行き着かなかった。

今年5月には市の危機管理課から来ていただき、能登半島地震の検証を踏まえた対応についてお聞きしている。その中で、地域協議会と一緒にできることはないか聞いたが、形式上はありがたいと言ってくれたが、実際問題としては、町内会や防災士会と検討を進めることがメインであるとのお話だった。

我々としては、協議会として何かお手伝いできることはないか、あるいは広く一般市民に対して、何か活動していくことはないかという思いもあり、今日皆さんとの意見交換の場を設けさせていただいたところである。

防災士会として地域協議会にこのような協力をしてほしい、あるいは何か相談に乗ってほしい、また、委員からも、直江津区の防災についてこういうことをやっていったほうがいいのではないかというようなことがあれば、ざっくばらんに意見交換をさせていただいて、より良いまちづくりに結びつけていければと思っている。

【増田委員】

日頃の活動、大変ありがたく思っている。私たち地域協議会も、なんとか直江津の防災力を向上させようという観点で、何をどのようにしていけばいいかということを皆で話し合っ、必要な措置を取っていこうと考えている。

市の危機管理課とも意見交換はしたが、すっきりしない部分があり、恐らく防災士会の皆さんも、市と話をしているときに、どうもすっきりしないという部分があるのではないかと思う。その部分について、私たちも是非一緒に、行政をプッシュしていければと考えている。

先ほど言ったように、恐らくいろいろなことをやりたいのだが、資金的に苦しいという部分があるのではないかと思うので、そのあたりを最初に聞かせていただきたい。

【防災士会直江津支部：木島副会長】

資金的な面では、各町内会から通信費という名目で1,000円ずつ毎年賛助いただき、講演等の依頼については、ほぼ手弁当のような形でやっている。

特に大きなお金を使わなければいけないような事業はしていないし、これからもそこまでは考えられないという感じである。自分たちの身の丈に合っている範囲内で運営しているので、特に資金的には困ってはいない。多分、これからも困らないのではないかと思う。

【磯田会長】

ほかに質問等はあるか。

【青山委員】

こういうことを心掛けてほしいということがあれば、わかりやすくご指導いただければありがたい。

【防災士会直江津支部：木島副会長】

地域協議会の、なんとか地域の防災力を向上させたいというのはすごく感じているし、私たちもそうしたいと思っていて、気持ちは多分一緒だと思う。

各町内会で避難訓練を年1回は行っていると思うが、避難訓練に参加される方は元気な方である。避難訓練に出てこれられない方や出にくい方というのは、避難行動要支援者の方や、病気、けが等で、そもそも家から出られないというような方だと思う。そういう方々を、どう命を落とさずに、スムーズに助けられるかということが最大のネックだと思う。

我々防災士は、避難行動の計画や、どうしたらいいかということを考えているが、避難行動要支援者の方を日々サポートしているのは民生委員さんなので、そことどう連携していくかといった問題は、そもそも管轄する国の行政組織が違うというところに起因しているので、我々防災士では太刀打ちできない。おそらく市の中でも危機管理課と民生委員さんとは多分連携はほとんどできていないと思う。

私たちとしては、地域協議会から、行政を動かすためのアドバイスなど、横から支援してもらえるとありがたい。

【磯田会長】

今のお話は非常に貴重なご意見で、協議会の役割とは何かということを考えたときに、協議会はプレーヤーになりきれない、なれない立場でもあるので、協議会として看板を背負ってしまうと、各町内へ協議会だからといって、ずかずか入っていくわけにもいかない。そういう一面もあるわけだが、行政に対してこうあるべき、こういうことで現場が困っている、こういうことが解決されればもっとスムーズな連携ができるのではないかなというような提案をすることは、ある意味では協議会のミッションの1つだと思っている。

【古澤副会長】

私も防災士会の一員として日々お世話になっている。今の防災士さんのスキルアップは目を見張るものがあると思うし、研修会も出席率が以前と比べると非常にいいと思う。

今、町内会長さんもいるし、防災士さんもいるし、いろいろな町内にお住まいの方がいる。例えば、自分の町内で困っていることを話していくと、いろいろな意見が出てくるのではないかなと思うので、そこから意見を拾って、地域協議会が行政にぶつけていくことで功を奏することもあるのではないかなと思う。

【今川委員】

私の町内としては、防災研修を2度ほどやっている。自主防災組織はできているが、私の町内では要支援者の高齢者が十何人もいる。誰が支援するのか。私は支援者になっているが、若い人が少なくて非常に困っている。

【保坂委員】

防災士さんから要支援者のことについてお話が出たが、私は町内会長をやっているので、そちらの観点からお話をさせてもらおうと、防災訓練をやるときには、民生委員さんや防災士さんから来てもらうが、民生委員さんからもらっている要支援者リストの方に訓練に参加してもらうのはすごく難しい。特に、個人情報と言われたら、何も言えない。想定した訓練はするが、個人を特定した訓練はできないので、そのところについては、今考えているところである。実際に能登半島地震で避難したときには「声を掛け合って避難しましょう」と訓練をしていたので、声を掛け合ってみんな避難したが、後で、「そんな余計なことしてもらっちゃ困る」と叱られた。そういう方もいらっしゃるので、訓練に参加してもらうことはできない。そういう困った事情もある。

【防災士会直江津支部：木島副会長】

本当に困っている事情だと思う。家が崩れそうで、その方はいいと言っても、見て見ぬふりはできないところが人間としてはある。町内会から頭ごなしに言うのと、反発してしまうところもあると思うので、町内会の下各組や、その隣近所同士で上手く話をまとめていきながら、広いところで町内会長さんが、きっちりではなくて、ある程度その組の動きを把握していくような感じしかないと思う。町内会長さんも要支援者リストは市からもらっていて、情報としてはよく分かっていると思うが、そのリストをもとにやるよりは、各組や、隣近所同士の助け合い等をベースにしていくしかないのではないかなと思う。

【田中（美）副会長】

私の隣が要支援者だったため声をかける役だった。この前の能登半島地震のときにお声掛けはさせてもらったが、結局は出ない。近所の人「危ないですよ。」と言っても動かない。いくら町内でも、それを私たちは強制できない。行かなければという気持ちにさせる何かがあればよいと思った。

【磯田会長】

今の、要支援者をどのように避難させていくかという話は、町内会でかなり温度差があったり、町内会では対応できない部分があるとすれば、実際問題としては、その下の

組、班で対応していくということにならざるを得ないと思う。

そういった小さなコミュニティの底上げのようなことを、どのように行政にアプローチしていけばいいのか、あるいは行政はとりあえず置いておいて、我々地域協議会や、あるいは防災士会の中で、そこを一緒に持ち上げていくような活動をどうすれば上手くできるのかと思う。

【関谷委員】

お三方のお話を聞いて、日頃から訓練をやっていたらしゃったり、隣近所を気にかけていらしたたり、それが一番大事なことだと思う。

能登半島地震が起こったときには、皆さんちゃんと行動されていた。隣を気にかけて、声をかけて、自分のうちも何とかしようとしたり、保坂委員がおっしゃったように、結果的に叱られたと、そういったことも事例としてはあった。それは、ほかのところでも聞いている。皆さん、いざとなったら、自分の命を守る行動、家族の命を守る行動、隣近所を守る行動、ちゃんとしていらしたる。それは、日頃の訓練の賜物であるし、隣近所のお付き合いは、そういったものから派生してきていると思う。そこを底上げしていく方策は、これからもみんなで考えていかなければならないことではあるが、日頃、皆さんがしっかりやっていたらしゃるので、それで十分とは言わないが、素晴らしいと思う。いざ災害が起これば、絶対皆さん、隣近所を助ける。自分も助からなければいけないし、とにかく命を守る行動をみんながする。そこがやはり一番だと思っている。

【増田委員】

皆さんのおっしゃるとおりだが、底上げの件については、実は、ハザードマップを見たことがない人が大勢いるということと、この前の地震ときは、皆さん津波だ、津波だと思って、津波の避難をしているが、津波の避難と洪水の避難は違う。それともう一つは、家屋倒壊の際の避難がある。その災害別にそれぞれ避難行動が違ってくるということを、住民の皆さんにしっかり理解しておいてほしいと思う。

危機管理課に、例えば防災マップの説明会をやったらどうだという話をするのだが、危機管理課としてそこまで取り組むという意欲は感じられない。そうかといって、それぞれの町内でやってくださいというのは、町内に事情があるということになると、例えば防災士さんと私たちが連携して、ハザードマップの説明会をやる、あるいは、ハザードマップが細かくて見にくいので、直江津区に限ったハザードマップの拡大版を作って配る、あるいは、災害ごとにどういうふうに行動したらいいかを考える。そういう活動

を防災士会の皆さんと、私たちと、町内会長の皆さんと協力してできないものかと私は考えているところである。

もう一つは、地震のときに、家屋倒壊に伴い必ず火事が出る。火事が出たときに、大規模地震だと消防車が来られないときにどうするかという問題は、市では全くノータッチになっている。そういうことも含めて、皆さんで考える機会を提案することが必要ではないかと考えているが、何かお考えがあれば聞かせていただきたい。

【関谷委員】

いいお話しをいただいたが、ハザードマップの説明については今年6月の市の防災リーダー研修において、当支部から町内会長さんや自主防災組織の役員さんに、ハザードマップの説明の仕方をお伝えした。持ち帰って、各町内でやっていただきたいのだが、難しければ直江津支部から防災士を派遣するとお伝えしてあるので、是非ご活用いただきたい。

【防災士会直江津支部：木島副会長】

先ほどの火事になったときなどに、どうしたらいいかという話で、直江津の祇園祭のときには、若い人がいっぱいいるじゃないかと皆さんも感じていると思う。避難行動要支援者のサポートもそうだが、若い力は非常に重要なので、各町内会さんで、消防団、青年会など、若い人をいかに上手く抱えこんで、何かあったときに活躍してもらおうかだと思う。私的には、直江津中学校等でも、防災の意識を高めてもらい、とりあえず、子ども達に、隣近所のおじいちゃんを助けられるような意識になってもらえれば、それだけでもすごく力になると思う。中学生、高校生ぐらいであっても、若い力が大事になると思うので、そういうところから手伝ってもらえるような環境づくりがすごく必要ではないかと思っている。

【石崎係長】

先ほど増田委員が、大規模地震で消防車が来られないときにどうするかという問題について市は特に考えていないというお話があったが、それについては、5月の第2回地域協議会の際に、地域協議会から危機管理課への質問事項に上げていただいております、危機管理課からは、救急隊員が徒歩で出向く、または県のヘリコプターによる搬送などが考えられると回答されている。また、建物倒壊により長期避難が必要となった場合についても、避難が長期化し、被災市町村の区域外への広域的な避難などが必要となった場合は、他市町村や県と協議すると回答されていることから、市として対応は想定してい

る。第2回協議会の資料を確認いただければと思う。

【磯田会長】

私から1つ。市の危機管理課との話の中で、地域協議会として協力できることはないかと質問した際に、市として推進しているわけではないが、指定避難所の運営について、町内会が避難所運営委員会を立ち上げる協力を協議会がしていくことは可能性としてあるのではないかと話をされたと思う。防災士会として町内をまたいだ避難所運営というのは取り組んでいるか。

【関谷委員】

避難所運営委員会を立ち上げるにあたっては、その避難所に行く町内会、町内会長さんたちがまず集まって、避難所運営委員長を決め、それからその組織を作っていく、それぞれの自主防災組織の方たちと関わって避難所をどう運営していくのかということをやっていくのが避難所運営委員会である。その立ち上げ等をするのは町内会長協議会になってくると思う。防災士は、町内会の自主防災組織の中に概ね入っているが、その中でいろいろな意見を言ったり、アドバイスをしたりという立ち位置なので、防災士が積極的に先になって動くということはないと思う。まずは町内会長協議会から動いていただく形になるのではないかと思います。

【防災士会直江津支部：木島副会長】

災害時は初期の避難所運営がとても大事になると思う。災害が発生してから、1日か、長くても2日ぐらいが初期避難だと思う。2日ぐらい経てば、危機管理課が言うようにそこらじゅうからヘリコプターが飛んできたりして、市としても安全な市の総合体育館、リージョンプラザ等に本格的な避難所が設営されると思うが、それがしっかり機能するまでの、沿岸部で被害が起きたときの、まず命をつなぎ止めるための、初期の避難所運営というところを、我々としては研修会等で勉強したりしているところなので、市が本格的に運営する避難所と、初期の発災時に近い状態の避難所運営とは、また別なような形になると思うので、その辺は少し分けて考えることが必要だと思っている。

我々が立ち入る場面が多いのは、初期の避難所運営になると思う。

【石崎係長】

最初のほうで、防災士会さんの方から民生委員さんとの協力関係が築ければというお話があったと思うが、具体的に協力関係とはどういったものか。例えば、定期的に会合を持ちたいとか、こういう情報を共有したいなど、具体的にあるか。

【古澤副会長】

町内会と民生委員は連携が取れており、情報も共有している。防災士会は民生委員と直接やり取りすることはないが、町内会から防災士会に防災に関して協力依頼する際に必要な情報は共有できる。

【防災士会直江津支部：木島副会長】

町内会さんから依頼された中で、避難行動計画の策定等について、アドバイスできるところはあるかもしれないというところである。

町内会さんから、うまく我々を使ってもらえればと思っている。

【関澤委員】

町内会と民生委員は上手く連携できている。この間、国府小学校で防災訓練をやった。そのときも参加してくれた。要支援者というのはなかなか難しい。名簿は、民生委員と町内会長のところへ来る。それを、どういかにするかというのは非常に難しい。個人情報だんだんうるさくなってきていて、その中には支援する人の名前も書いてある。しかし、それをなかなかいかしきれないのが現状ではないか。

【磯田会長】

今のお話が、まさに抱えている問題点、肝だと思うので、そういうところも注力していきたいと思う。

本日は、地域協議会と防災士会はどういったところで協働できるのか、大きくはそういう思いで設定をさせていただいた。

今日のお話を受けて、協議会の中でこれから自主的審議も少し深めていきながら、どういう取組があるべきなのかというところを議論して、またお力をお借りするような場面も出てくるかと思うが、よろしくお願いしたい。

今日は、長時間お時間をいただき感謝する。

ー 防災士会 退室 ー

次に、【報告事項】廃校施設の利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査の結果について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

資産活用課から報告事項があるので報告させていただく。

- ・資料No.3「廃校施設の利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査の結果について」に基づき説明

【磯田会長】

今ほどの報告に対し、質問等はあるか。

【田中実委員】

15も施設があるのに、7件しか参加がなかった。行政の皆さんは、我々民間に頼まないで、どのようにしたら利活用できるかとは考えないのか。

【石崎係長】

市として利活用は考えないのかというお話だが、今回のこの調査の目的は、実施前にご説明したとおり「市の財源の確保や将来的な財政負担を軽減すること等」を主な目的として調査をするものであり、市がこれらの施設に新たにお金をかけて利活用するのではなく、民間での活用を目的としているものである。

【田中実委員】

私が言っているのは、市に財政負担をしなさいということではない。市で利活用方法を示して民間を募集するという考えが持てないのかということである。

【石崎係長】

今、田中委員がおっしゃったことは、この次の段階で行う予定である。

今回の調査結果を踏まえて、市で廃校の利活用の方向性について検討し、その方向性に基づいて民間に利活用の希望者を求めていくものである。

【磯田会長】

ほかに意見を求めるがなし。

その他に移る。

まず私から。前回の協議会で、1年間の振り返りをさせていただき、皆さんから様々なご意見をいただいた。皆さんのご意見を踏まえて、正副会長と事務局で今後の協議会運営について検討しているところである。次回の協議会で提案をさせていただければと思っている。

- ・次回協議会：9月9日（火）午後6時30分から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。